

各関係機関団体の長
殿
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

警報 第1号

いもち病(穂いもち)の発生について

本病については、8月8日付けで注意報を発表しているところですが、その後も不順な天候が続いているため、発生が増加しています。また、発病ほ場の約3割で上位葉にも進展型の病斑が認められます。8月下旬以降も、いもち病の発生に適した曇雨天の気象条件が続くと予想されており、今後、穂いもちの多発が懸念されますので、防除を徹底してください。

1 作物名 水稻

2 病虫害名 いもち病(穂いもち)

3 発生地域 県内全域

4 警報の根拠

(1) 8月5半旬調査の結果、葉いもちの発病株率及び発生ほ場率は平年より高く、発病株率72%の多発ほ場も一部にみられた。

発病株率 19.0% (平年 5.05% 前年 7.99%)

発生ほ場率 83.3% (平年 28.7% 前年 47.9%)

(2) 発生ほ場の約3割で、上位葉にも病斑上に多数の胞子を形成する進展型病斑が確認されている。

(3) 日照不足により、稲の体質は軟弱となっており、罹病しやすい状態となっている。

(4) 九州北部地方の1か月予報では(8月21日発表)、曇雨天が多く気温も低い見込みであり(8月23~29日)、今後、穂いもちの発病にとって好適な感染条件となることが予想される。

5 防除上注意すべき事項

(1) これから出穂期となる元気つくしやヒノヒカリ等では、基幹防除(穂いもち対応)を徹底する。

(2) 穂いもちは、発生後の防除が困難であるため、葉いもちの発生が多いほ場では、出穂期

直前と穂揃期の2回防除を徹底する。

(3) 降雨が続く、地上散布が困難な場合は早めに粒剤の施用を行う。

(4) 防除にあたっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を順守する

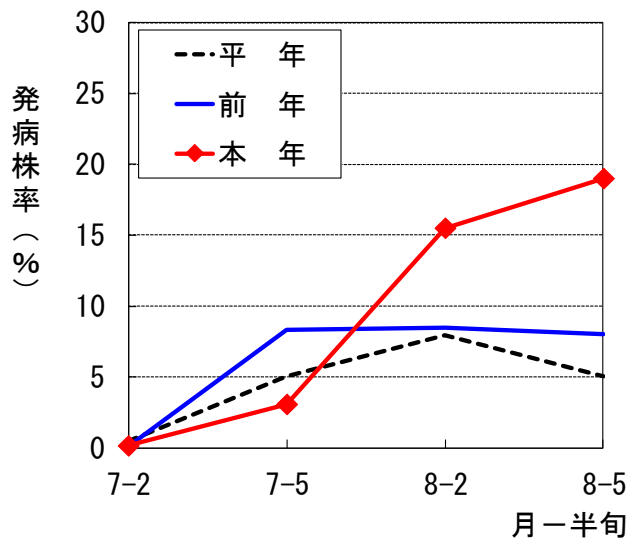


図1 葉いもち発病株率の推移

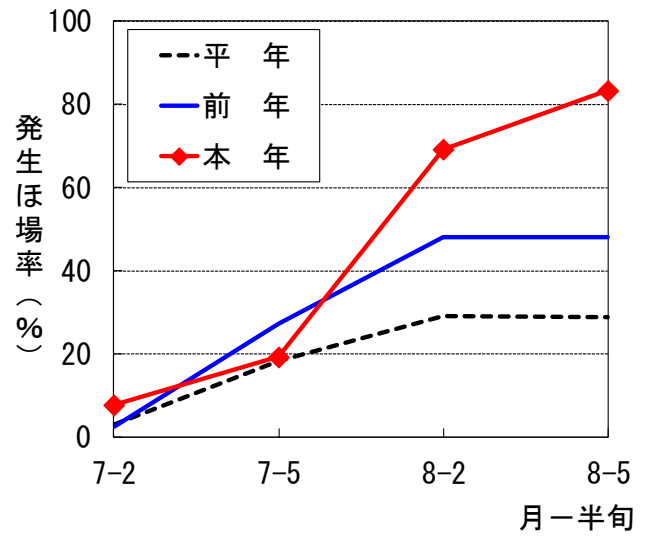


図2 葉いもち発生ほ場率の推移



写真1 上位葉に見られた
いもち病の進展型病斑



写真2 葉いもち多発ほ場の様子